

島内4カ所

バイオ燃料用 イネの種まき

バイオエタノールの原料となる飼料イネ「夢あおば」の種まきが二十六、二十七日の両日、島内四カ所のほ場で行われた。市が筑波大などと共同で進めるバイオエタノール生産システム研究の二期。三年計画の最後となる二〇〇九年度はコメの収量増を目指すほか、環境や経済面の検証を進め、事業化の可能性を探る。



写真＝バイオエタノール用イネ「夢あおば」の種を手まきするほ場所有者(26日、小倉)

市、筑波大など

計画最終年 収量増へ

事業化の可能性も探る

この研究は、島内の耕トをあまりかけずに原料作放棄田の有効活用と、米を栽培するため、代かイネを原料としたバイオエタノール事業での地域活性化などが目標。コス

〇八年度は全ほ場を代かきしなかったことや気温が低かったことなどから、収量が前年度に比べて減少。十ヶ当たり二百

八ヶ。過去二年のデータを踏まえ、各ほ場の気温や風の強さなどの条件に合わせて栽培の方法を変

二、二十六日は畑野地区の飯持ほ場十一ヶ、小倉ほ場二ヶで種まきを実施。倒れにくく収量が多い

二、二十七日は西津地区の浜梅津ほ場十三ヶ、真野地区の真野ほ場十二ヶで実施。種を筋状にまいて土をかける機械などが使

二、二十七日は西津地区の浜梅津ほ場十三ヶ、真野地区の真野ほ場十二ヶで実施。種を筋状にまいて土をかける機械などが使

准教授(西)は「栽培に関する」データをしっかり取り、経済効率や二酸化炭素の削減につながるのかなどを評価できるよ

うにしたい」と話していた。収穫は十月中旬となる見込み。

筑波大学院の北村豊